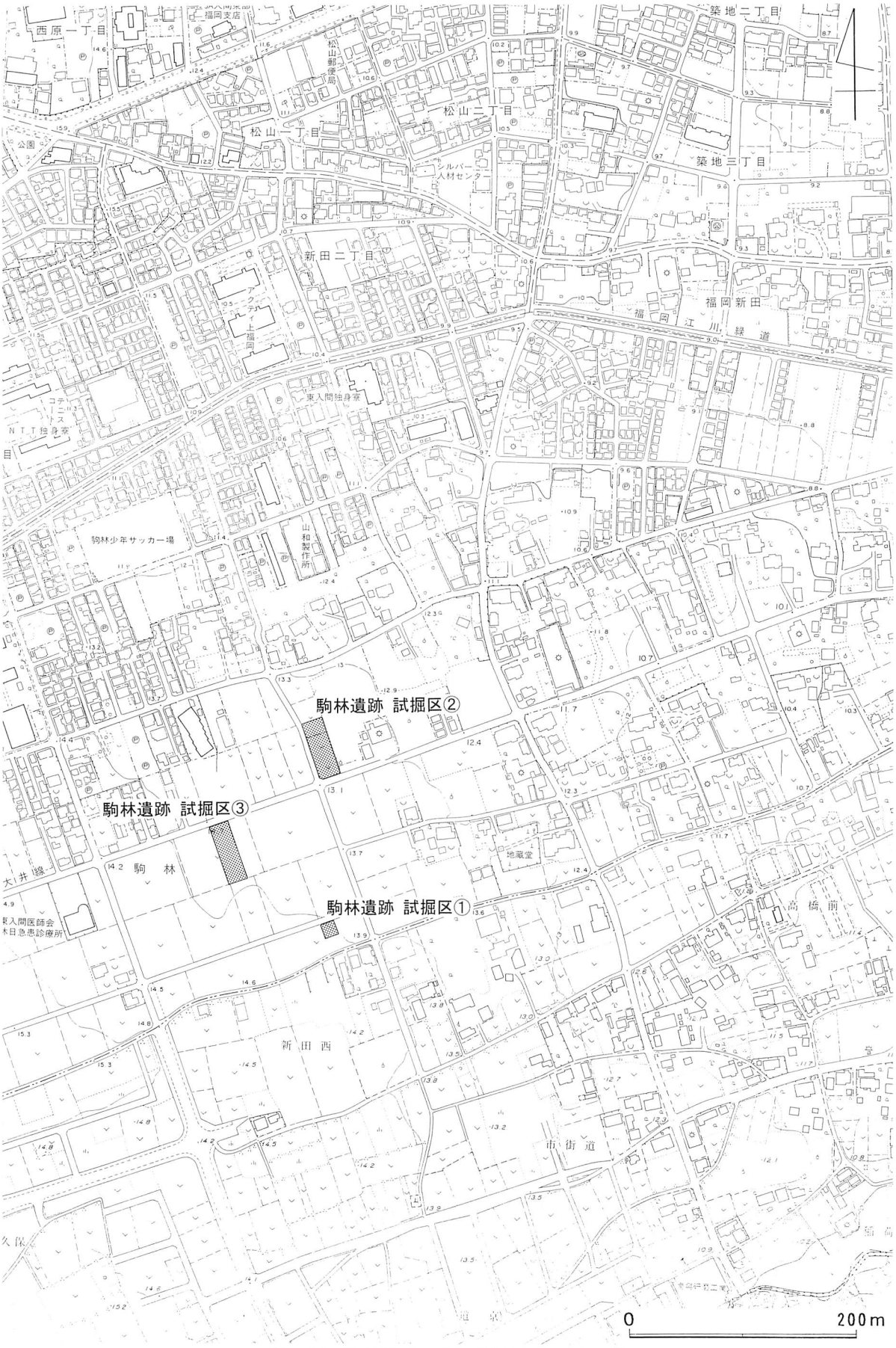
第１図　遺跡位置図（１／15000）



第５図　駒林遺跡調査区位置図（１／5000）

4．駒林遺跡　試掘調査②

調査目的　共同住宅建設に伴う試掘調査

所在地　駒林字新田前223

調査期間　平成９年５月９日～５月15日

調査面積　991.55㎡

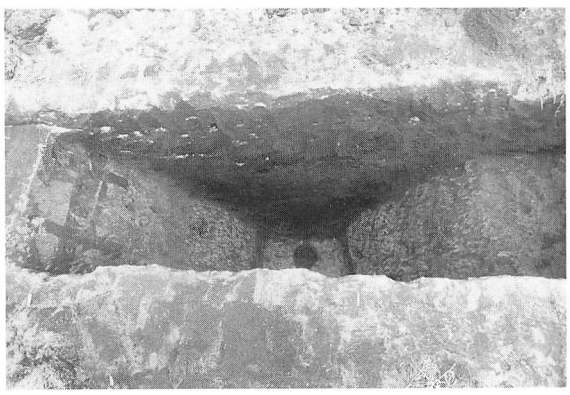
調査担当　市丸・笹森

概要　今回の調査区は、前記の試掘調査①の地点から180m北に位置する。調査区は西側の土地境界線を基準にして、２m間隔で北から南方向に１区～27区、西から東方向にＡ区～Ｉ区の方眼を設定した。５月９日より調査を開始し、一区おきに人力にて表土除去作業を行ったところ、11列以外のグリッドでは地表面より30cmほど掘り下げたところでローム面に達したが撹乱が縦横に走っており、遺構等は検出されなかった。11列では地表面から深さ１m30cmに達したところで東西方向に流路をとる溝状遺構が検出されたため、10－G、12－G区を拡張し、溝の覆土の発掘を開始した。作業を進めてゆくと、溝の南側部分の上場は削平されており、北側部分の上場より50cmほど低くなっていることが確認された。溝の幅は４m10cm、深さ２m７cmを測る。溝の壁は約50°の傾斜を持ち、底部に至る20cmほどはほぼ垂直になっている。底部はほぼ平坦で、長径約40cm、深さ20cmの楕円形のピットが検出された。溝の壁及び底部は堅固にしまっており、表面が滑らかであることから、水が流れていたものと推測される。また、溝の深さは東に向かって深くなることから、西から東に向かって流れていたようである。覆土からは須恵器片が一片出土したが、溝が埋まる過程で流れ込んだものと考えられるため、溝の年代を決める基準とはなり得ない。したがって、時期は不明であるが、水が流れていたこと、及び底部が平坦なことから、農業用水として使用されていた可能性が指摘できる。写真撮影後、図面作成を行い、５月13日より埋め戻しを開始し、15日にすべての作業を終えて現地を撤収した。

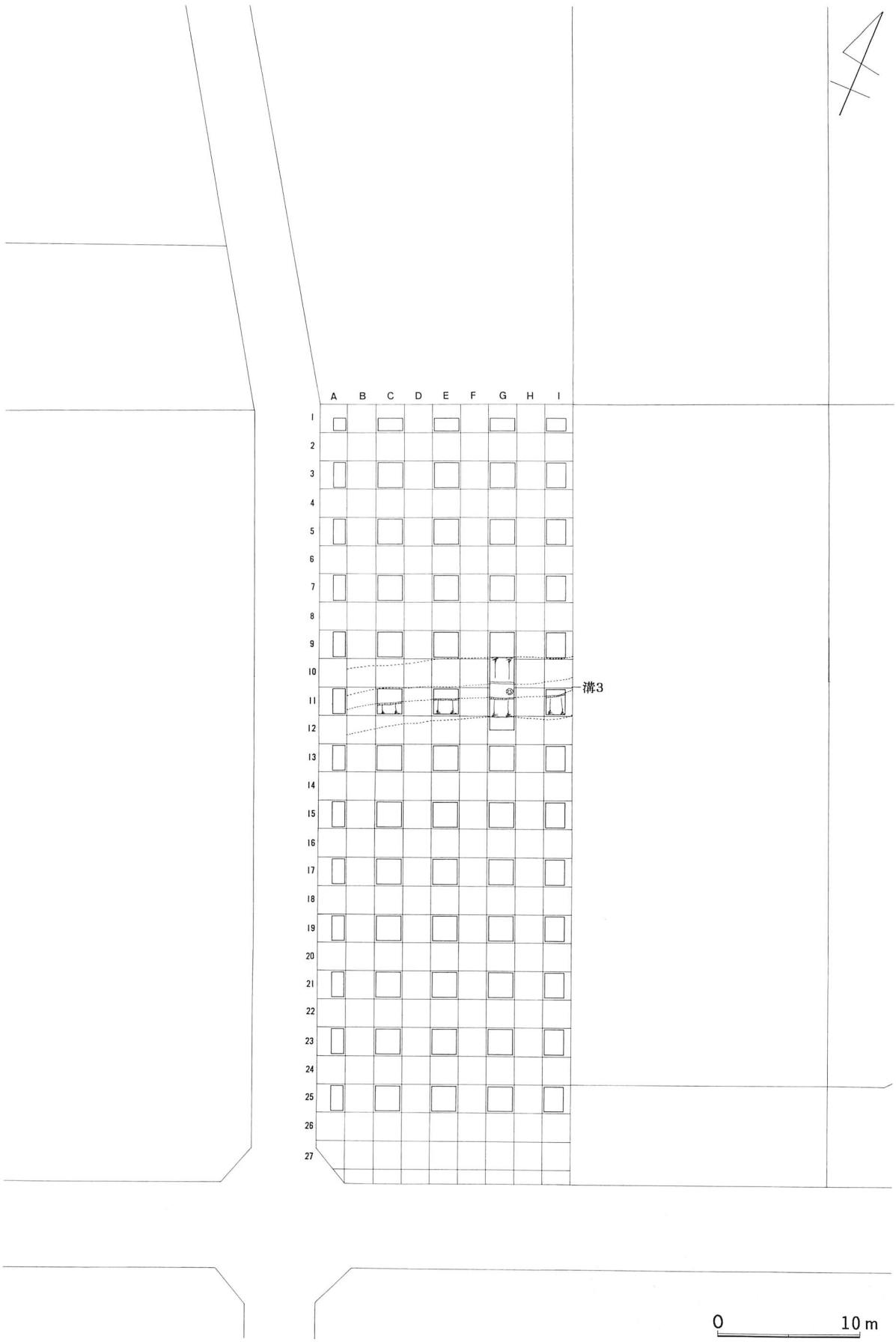
出土遺物　須恵器片

調査結果　溝状遺構１条（時期不明）

溝３発掘風景（北より）



溝３（西より）



第７図　駒林遺跡試掘調査区②全測図（１／400）